

教育民生常任委員会は、平成30年7月17日～19日、福井県の1市2町を行政視察しました。

視察報告

先進

伝建地区の保存活用

福井県小浜市

小浜市では、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に指定されている「小浜西組」を視察した。

同地区は平成10年に小浜市が保存条例を制定して保存の取り組みを開始し、平成20年に国の指定を受けたもので、指定から10年経過している。

町屋での祝言のあと、街路を練り歩いたり、縁日にあわせたイベントを行っている。

地域内の伝統行事にあわせて各戸に行灯を設置し、子どもや住民の安全を守るとともに、町並みの情緒を盛り上げる1門1灯運動、古民家の改修技術の共有と促進など、さまざまな先進的な取り組みが行われていた。

全国的な課題である空き家対策については、修繕に800万円を補助するなど、移住の受入に努めている。

保存活用については、街路の整備、電線の地中化、側溝の整備、除雪対策などに取り組んでいた。

ボランティアアガイドの現状は、「若狭の語り部」として20年が経過し、高齢化が進んでいる。教員OBを中心に30人ぐらいが道の駅に常駐して案内に当たっている。

後継者については、重伝建の活動をとおして深くなった住民の絆をもとに、イベントの中で30代、40代の人が中心者として活躍できる場を作り、皆でフォローしながら育成している。

これら取り組みは本町の施策の参考としたい。



情緒豊かな元料亭で説明を受ける

先進の認知症施策

福井県若狭町

若狭町は認知症対策で全国の先頭を走っている町である。

その中心で推進されている、地域包括支援センターの佐野明子所長から詳しい説明を受けた。

特に、平成18年度から取り組んでいる認知症サポーター講座の受講者数が約人口1万5千人に対して約1万2千人となっているとのこと。

早くからの取り組みが大きな成果を生んでいる。そして、町独自の認知症

一行詩全国コンクール事業が、認知症の予防と啓発に大きな力となっていることがうかがえた。

今後は、認知症キャラバンメイトの養成事業に取り組むとのことであった。

キャラバンメイトは、認知症サポーター養成講座の講師や、認知症サポーターのリーダーとしての役割が期待されており、本

町の参考となる取り組みであった。

子育て支援の取り組み

福井県永平寺町

充実した子育て支援で知られる永平寺町では、室教育長ほか7名の方から子どもの医療費無償化、放課後子どもクラブ、学校給食費無償化などについて説明を受け、質疑応答を行った。

放課後子どもクラブの指導者配置について、国は20人に1人のところ、永平寺町では15人に1人配置している。

指導者の資格取得状況は、資格を持たない者もいる。

平成31年度末までに資格を取得するように指導しているとのことであった。

地域の実情に合わせた、特色ある施策であり、本町での活用を考えたい。